



健康と温泉フォーラム 第37回月例研究会のご案内

- 主催 NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会
- 日時 2013年4月26日(金) 13:30~16:30 (受付13:00から)
- 会場 上野・東京文化会館4F 中会議室1
東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR上野駅公園口出て正面すぐです。
- テーマ「温泉と東京ディズニーランド」
- 講師 下村彰男(東京大学大学院農業生命科学研究科教授)

「近代技術は様々なレクリエーション空間を開発した。その中には自然との接触の幅を広げたものもある一方、その技術力故に失ってしまったものも大きい。集落内からの周辺自然への眺めを遮る有力宿の巨大ビル化や、ヒューマンスケールを超えた集落スプロールなど、温泉地は強大な人工物と化し、豊かであった自然との接触機会や方法を徐々に失っていった。近代の建築・土木技術の発展は多くを可能にしたがゆえに、そのコントロール、そして適用すべき場所や方法を誤ると、非常に大きな傷を残してしまうことになる。今後の温泉地には、空間的魅力に満ち、寛ぐことのできる保養滞在地であることが求められると考える。その為には再び「場」や「空間」との接触の豊かさを取り戻す必要がある。」—「我が国における温泉地の空間構成に関する研究」(下村彰男 平成7年論文より抜粋)

お金も暇もある中高年の旅行熱はいぜん活気があるのに、全国の温泉地が週休5日状態と冗談とも取れない深刻な状況だと嘆く声が聞こえて久しい。地域住民の高齢化と過疎化現象とともに戦後日本の温泉地空間は魅力を喪失し、温泉地が温泉地としてもっていないなければならない温泉地としての本質とそれを支える街そのものの機能を見失っているのではないのか?昭和・平成と続いた市町村合併や高速道路開通により、地方中核都市(母都市)への行政、教育、商業施設など生活機能の一極集中化が進み、地元の本屋や食料品店、衣料雑貨店、床屋などが次々空家となっている。そしてますます交通便利な大型商業施設に域内の消費が集中するようになり、虫歯のように廃屋の並ぶ街は活気がない。平日の昼間などはほとんど人通りのないゴーストタウンに、湯の入っていない足湯に温泉客が途方にくれているのをよく目にする。

日本の温泉地の再生が叫ばれて久しいが、温泉地の空間構成を研究されている下村教授とともに温泉地としてあるべき空間とその機能に関して知見を深めたい。(合田)



- プログラム
 - 1300 受付
 - 1330 コーディネーター・背景説明
 - 1340 講演
「温泉と東京ディズニーランド」
下村 彰男(東京大学大学院農業生命科学研究科教授)
 - 1500 休憩
 - 1515 ディスカッション
 - 1630 終了
- 参加費 健康と温泉フォーラム・日本スパ振興協会・地域活性学会会員
2000円

一般の方
3000円
報道関係者・学生
無料

(当日会場受付で承ります)

- お申し込み・お問い合わせ
NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mail またはFAXにてお申し込み下さい。定員先着順40名とさせていただきます。お早めにお申し込みください。

E-mail TEL&FAX 03-6804-8575

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 第37回月例会(2013年4月26日(金))に出席します。

● お名前
(複数可)

● 団体名

● 住所

● TEL

● FAX

● E-mail